

「自分が知っている自分」と「他者が知っている自分」

～ 自分にとって重要な他者からの評価がセルフ・イメージをつくる ～

校長 本間 智英

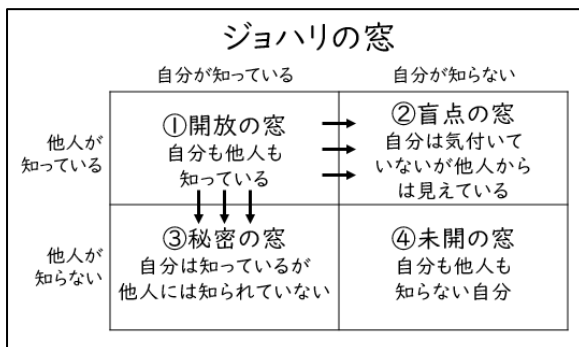
早いもので、1学期終業式(21日)まで残り3週間弱となりました。おうちの方には、日ごろからお子さんの検温や体調管理、マスク、水筒の準備等をしていただき**感謝**申し上げます。

さて、先月の学校だよりで紹介しましたが、6月は「いじめ見逃しゼロ強調月間」でした。相川小学校では、他者のよいところを紹介し合う「よいこと金山」に取り組みました。たくさんの小判(他者のよいところが書かれたカード)が金山に貼られています。多くの子どもが、他者のよさに気付いていることがわかりました。

相川音頭を踊る
子どもの写真

「宵乃舞」
相川小バージョン(6/28)

では、「自分のよさは何ですか?」と聞かれたら子どもたちはどう答えるでしょう。もしかしたら、他者のよさは見付けられても、自分となるとなかなか見付からない、という子ども(私もそうですが…)が多いのではないのでしょうか。



左の図は、アメリカの心理学者ジョセフ・ルフトとハリー・イングラムによって考案された『**ジョハリの窓**』です(ジョセフとハリーだから「ジョハリ」)。「自分」というものは、自分自身が理解している自分だけではありません。自分で気付いていない「自分」も存在します。他者に言われて初めて気付く自分の癖や性格などです。

今回の「よいこと金山」の取組で、自分でも気付いていない「自分」が発見できたのではないのでしょうか。今後も、子ども自身が新たな才能や長所を見付けられるよう、様々な取組を考えていきます。

また、自分にとって重要な人からの評価は、自分に対して抱くイメージ(セルフ・イメージ)に**大きな影響を及ぼす**そうです。例えば、「あなたは優しい子ね」と言われて育った子どもは、「私は優しい人間だ」というイメージをもち、そのイメージに合った行動をとるようになります。その逆で、「あなたは何をやってもダメな子ね」と言われて育った子どもは、「私は何をやってもダメな人間だ」というイメージ通りに行動するようになってしまいます。

私たち教職員も、子どもに肯定的な評価ができるよう子どものよさを見付けていきます(もちろん「してはいけないこと」に対しては毅然とした態度で指導します)。

参考・引用文献

大谷佳子(2020年)『対人援助の現場で使える 承認する・勇気づける技術便利帳』SHOEISHA
6月28日閲覧「ジョハリの窓～自己理解を深めるフレームワーク」

<http://motivation-up.com/motivation/johari.html>